

まもなく2010年が終わろうとしています。そして2011年がやってきます。来年に向けて宣教の基本について学んでいきたいと思います。ある人の言葉で、「父親になることは簡単だが、父親であることは容易ではない。」があります。如何でしょうか。それをちょっと変化させ、「クリスチャンになることは簡単であるが、クリスチャンであることは容易ではない」とします。これは真理でしょうか。これは間違っています。私たちはクリスチャンになるのではありません。(ヨハネ15：16、ガラ3：13) 私たちはクリスチャンに選ばれたのです。それはいろいろな方法で教会に来たかもしれません。しかしそこには神の見えない後押しがあります。ですから、「クリスチャンにさせて頂いた」という受動態であり、私たちはクリスチャンであり続けなければいけません。クリスチャンであり続けるために、宣教へと向かっていきますが、今日は方法論ではなく、基本について学んでいきたいと思います。(Iサム3：19、20)「主はサムエルと共にいて、サムエルの言葉を一つも地に落とされなかった…」サムエルは自らが神の預言者であると伝えたのではありませんでした。しかし彼の言葉によってイスラエルは神の預言者として立てられた事を知りました。これはとても驚くべきことです。私たちは神に用いられる者になるための基本について学んでいきたいと思います。①主の聲に聴き入ること。(Iサム3：1～)サムエルは祭司であるエリと一対一で訓練を受けられるとてもよい環境にいました。しかし霊的な環境は劣悪な状況でした。それは「主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった(Iサム3：1)」と書かれています。神のことばがないような霊的な飢饉の状態でした。そのような中でも主はサムエルに何度も声をかけています。サムエルは主が呼ばれた時、聴くことから始めました。サムエルは神が呼ばれている声は聞こえました。しかし悟る事ができませんでした。エリはその声は神からであるからと教え、「主よお話しください、しもべは聞いております」と言うように教えられました。神はことばです(ヨハネ1：1)神はことばであれば、神は私たちに語って下さるお方です。ある人はこのような言葉を残しています「語られる神の声は書かれた神の言葉に隠されている」。サムエルの時代は書物としての聖書はありませんでした。神の声を聞き分けるしかなく、そのために自分の心にある罪を取り除いて聴いていきましょう。そして聖書の言葉を心に蓄えておく必要があります。その声を聞き分けていくと、主が「Yes!」「No!」「Wait!」と言っていることが分かってきます。心の中に聖なる響きから伝わってくるためには聖書の言葉を詰め込んでいきましょう。(詩篇1：2、3)「Yes!」という主の声に従って行くとき、何をしても栄えるという人生になっていきます。また(詩篇119：11)「No!」という主の声に従って行くとき、罪を犯さないでいる事ができます。(詩130：5)「Wait!」を意味しています。日本人は「忙しい」という事が誇りとしています。他の国々では見られません。ですから、待つことがとても苦手です。神の静かな語りかけに対して静かな時間を持ち、耳を傾けることが難しい状況です。しかしその時間を持ち、習慣となるようにしていきましょう。私たちは主の呼びかけに対して聴き入っているとそれが「主のことば」となり、それは私たちに對して神からの応答となります。「待」→「静」→「聴」は繋がっているのです。これができるようになるとバランスのとれたクリスチャンとよばれるようになります。②聴いた事を語る。聴くことから宣教活動が始まります。「待」→「静」→「聴」のプロセスをすると心の内から宣教への思いがこみあげてきます。「目で読む聖書は文字に過ぎませんが、聴き入る心で読むと聖書は「ことば」になります。ボンフェッファーはこの神の「ことばの宣教は出来事を生む」と言っています。(Iコリ2：4、5)「静」→「聴」→「語」→「御霊と御力の現れ」である神の奇跡が起こります。サムエルにとってはあまりにも内容の重い主のことばをききました。(Iサム3：11～14)「聴」→「語」に移すには難しい場合、厳しい場合もあります。自分としては語りたくないようなことも伝えなくてはならないこともあります。神の愛ゆえに、厳しい事を伝えることとなります。それは大きな傷を防ぐために小さな痛みを味わうかもしれません。エリもサムエルに告げられたことばが厳しいものであることは察していました。エリはその言葉を伝えるようにサムエルにつげ、厳しい訓練をしました。サムエルも従順に訓練を受け、同様にエリも神のことばを従順に受け入れました。サムエルはこの事を通して神の預言者として選ばれました。そしてサムエルは成長しました。私たちもクリスチャンとしての良い影響が周りに流れていくように従順になっていきましょう。③語った事が実現したこと。サムエルのことばが「地に落ちなかった」と聖書は語っています。それは神から聴いた言葉であり、神の言葉は必ず実現するからです。サムエルは成長し、シロで用いられたといっています。サムエルは最後の土師であり、最初の預言者とよばれています。エリやエリシャのように、華々しい活躍をしたわけでもありませんし、イザヤのような壮大な預言をしたわけでもありませんでしたが、イスラエルへの貢献度は大きいものでした。イスラエル民族、キリスト教会にとってダビデに油を注ぐという役目を果たしました。サムエルは神に従い、ダビデを見出ししました。このダビデからイエスキリストへと続いていきます。私たちは宣教の心得を知って成長していくために、メンターである牧師が必要です。牧師より聖書的な基礎の習得していきます。そして聖書の基礎を学びつつ、霊性が成熟していきます。そこで御霊による現われを体験していくことができます。ですから私たちが「静」→「聴」→「語」る事ができれば、どこにおいても「出来事」が起こります。しかし私たちは「静」まる事ができているでしょうか。そして神の答えがくるまで「待」ことができるでしょうか。「待」つことができないゆえに失敗してしまっていないでしょうか。そして聴いた答えが自分の想定を超えている時に、それを聴くことができないと今までの自分を変える事ができません。私たちは静まり心に語りかけてくる声に従うようにしていきましょう。そのためには私たちに余裕がなければいけません。私たちが生活してきた中で得てきた判断基準に加えて、静まったときに聞こえる声に耳を傾けて新しい年に向けて生活していきましょう。(要約者：平澤一浩)